

宮津市 御中

2023年度
宿泊データ分析システム
企画提案書

2023年3月14日（修正）



感動のそばに、いつも。

株式会社 J T B

目次

■ 課題認識	
・ 観光地経営を取り巻く環境	2
・ 実証地域を取り巻く環境	3
■ 事業の実施方針	
・ 背景と目的	6
・ 事業の実施方針	7
・ 宿泊データ分析システムについて	8
・ 宿泊データ分析システムの運用・保守管理	20
・ 宿泊データ分析システムの導入および説明会実施	23
・ 参画宿泊施設への対応	25
	29
■ 実施体制	30
■ 法人の概要	31
■ 当コンソーシアムの優位性	32
■ 導入実績	

▶ 観光地経営を取り巻く環境

コロナ禍によってデジタル化、オンライン化が進み、観光やレジャーのスタイルも早いテンポで変化しつつあります。

インバウンド需要は大きく変わり、団体客や大人数を対象とした観光やイベント、レジャーなどの需要も変化しています。

こうした中で、観光の仕組みを活用して、地域の魅力度を高めるためには、これまでと違う方法も考慮し、魅力を打ち出し、新たなターゲットの関心と呼ぶと同時に、付加価値の高いモデルに変革する必要があります。

そのためには地域の魅力を磨き上げると同時に、観光関連業種だけの視点から、地域経営として**産業全体を牽引する、付加価値の高い産業モデルに変革**していくことが不可欠です。

また、産業を支える従事者の確保が、全国的に厳しさを増しています。持続可能な産業として成長し続けるためには、足元の生産性の向上を図ると同時に、中長期に観光関連ビジネス自体の魅力化、従事することのプライドを醸成することまでも必要になります。

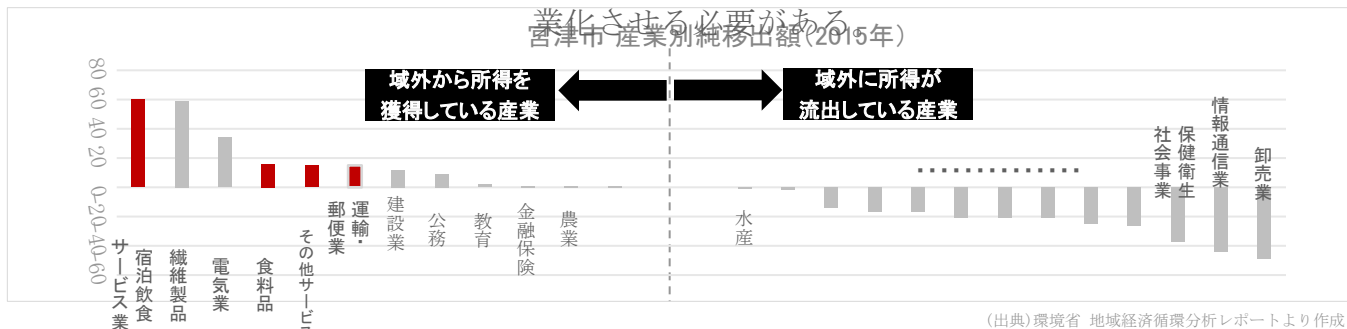
まずは、デジタルトランスフォーメーションの推進で、業界の**現場のオペレーションそのものの改善、速報性の高いデータの取得（特に消費データ）、AIによる簡易分析、人知による課題と機会の分析、そして施策立案と実行力**を、地域として仕組みとして、獲得をしていく必要があります。

課題認識

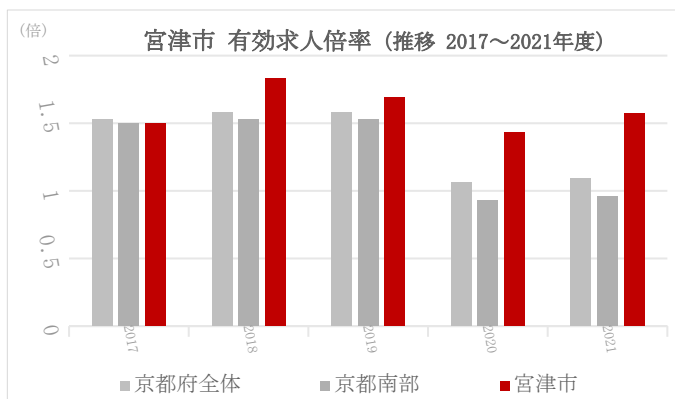
地域を取り巻く環境

【宮津市全般の特徴・課題】

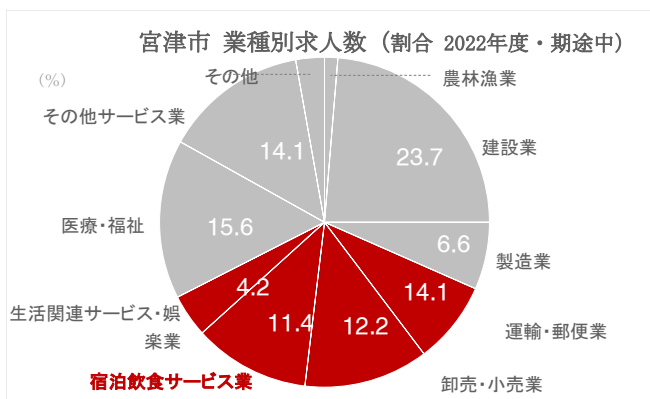
産業全体 地域外から所得を獲得する産業は「宿泊・飲食サービス業」(60 億円)、「繊維製品」(59 億円)、「電気業」(34 億円)。今後もこれら強みのある分野を域内で面的に成長産業化させる必要がある。



労働面 京都南部に比べ宮津市周辺の有効求人倍率が高い。宿泊飲食サービス業を中心に観光関連の求人数は全体の20%近くにのぼり、**業種間と事業所間で人の取り合い**が起こっている。物価高も影響し、処遇のよい業種に**労働力移動が加速する**可能性が高い。



(出典) 京都労働局 労働市場年報公共職業安定所別より作成
*安定所別数値を地区に読み替え比較(京都西陣職業安定所、宮津出張所)



(出典) 京都労働局 労働市場年報一般職業紹介関係より作成
*宮津出張所数値を地区に読み替え、2022年12月時点

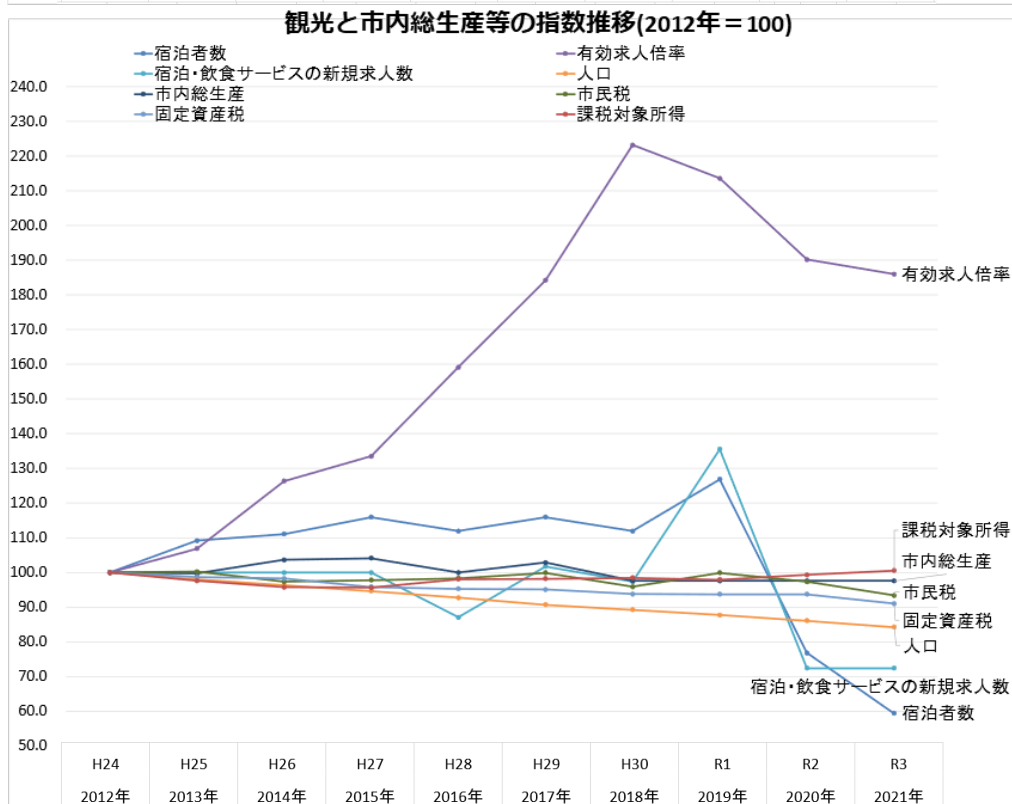
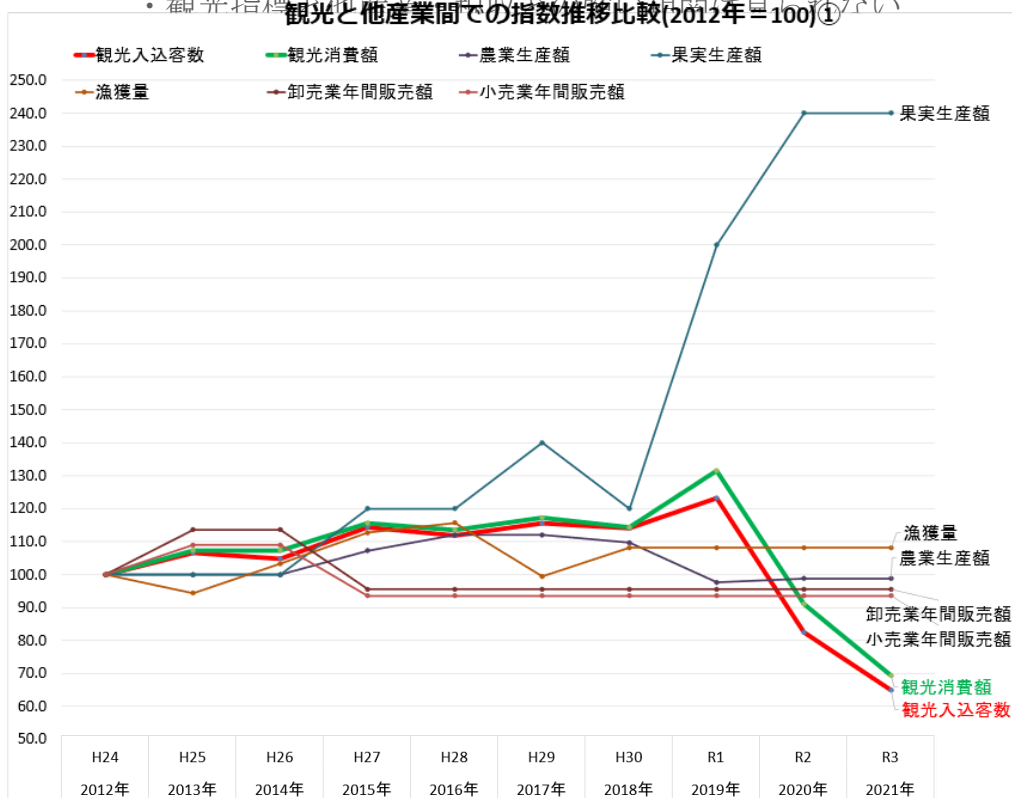
地域イメージ 自治体の認知等に関する調査で、全国において自治体の知名度は低いですが、観光意欲、産品想起、地域資源評価がやや高い。関西や中京以外の居住者には、**立地地域(京都北部)、地場産品、地域資源**を入口としたブランディングが効果的と考えられる。

	魅力総合		居留意欲		観光意欲		産品想起		地域資源		
	(順位)	全国	府下15市	全国	府下15市	全国	府下15市	全国	府下15市	全国	府下15市
宮津		535	11	501	14	400	8	327	5	345	10
京丹後		299	4	236	7	189	4	144	3	286	7
舞鶴		148	3	114	3	103	3	477	5	93	3
福知山		334	7	469	11	579	14	477	10	297	8
*豊岡		480	-	667	-	516	-	73	-	771	-

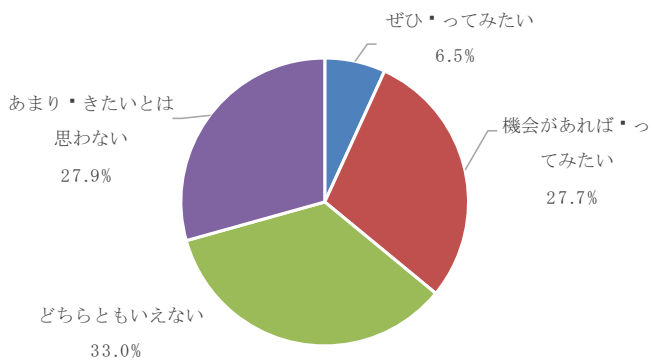
(出典) ブランド総合研究所調査結果より作成
*第17回地域ブランド調査2022、調査期間2022年6月~7月
有効回答34,768人、性・年代・居住地均等、人口ウェイトバック

【宮津市の観光関連の特徴・課題】

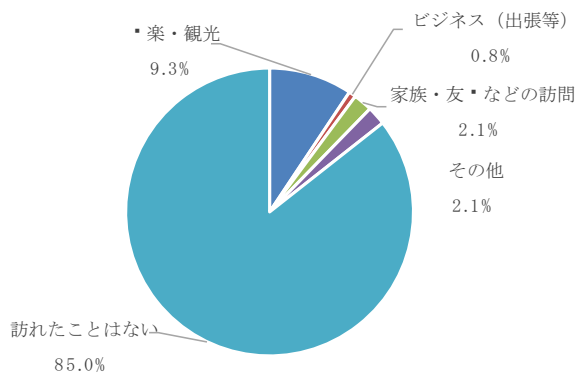
- ・天橋立に一極集中、「日帰り」が全体の8割、観光消費単価も低い
- ・宿泊者全体のうち外国人宿泊者数の割合は8.4%（2019年度）
- ・観光指標と他産業・税収との強い相関は見られない



宮津市への観光について



宮津市への訪問・的



背景と目的（当社の認識）

近年における観光産業は、コロナ禍において、非常に厳しい社会環境に置かれています。コロナ禍後の観光地間の地域間競争への対応を図っていくためには、**これまで養ってきた観光の経営ノウハウだけでなく、データに裏付けられた確かな観光動向**を的確に捉え、県や自治体・DMO、観光事業者（宿泊事業者等）による個々の取組み、相互連携による取組みを戦略的に進めていくことが必要と考えます。

また、この種のデータ利活用事業を始める際に何よりも重要なのが地域のステークホルダー間の合意形成です。JTB京都中央支店は地域の観光に係るステークホルダーとの連携を密にし、宮津市の観光振興に取り組んでおります。宮津市様と一緒に、地域の合意形成を最大限にサポートします。

本業務で導入いただく『宿泊データ分析システム』は地域全体の宿泊予約データをタイムリーに把握し、効率的で効果的なマーケティングを可能とし、地域の観光事業者に必要なデータを提供しながら、観光地マネジメントすることにより、地域全体の収益性、競争力を高めることができると認識しています。

以上を踏まえ、私たちは、単にデータ収集・データ分析結果表示に留まらず、**データをもとにした需要予測、データに基づく施策の評価ができる仕組み**として『宿泊データ分析システム』をお勧めいたします。加えて、こうした取組には、**“データを読み解く力”が必要であると考え、その人材育成についても支援**を行います。



事業の実施方針

本業務の実施にあたっては、業務の背景と目的を踏まえ、以下の方針で取り組むことを提案し

[データ収集機能について]

方針1

宿泊事業者のデータ入手状況に応じた多様なデータ収集方法を用意、データ提供者（宿泊事業者）の負担を極力削減、必要なデータ量の収集を促進

方針2

個別宿泊事業者も有効利用できる「宿泊データ分析システム」へ、自施設データと宮津市の傾向とを比較でき、宿泊事業者にメリットを創出

[データ分析機能について]

方針3

収集データの有用活用（全国観光地と宿泊・人流・消費の分野での傾向比較）するため、全国を網羅する観光関連データ、宿泊以外の地域観光関連データと連携

方針4

様々な条件・表示によるデータ分析、収集データを活用した将来の動向予測、施策評価等、データ分析機能を整備し、宮津市の計画や政策への効果的活用を促進

[人材育成・機能拡張について]

方針5

データ収集段階、データ分析段階など、取組みのステップに応じた説明会プログラムを検討・実施し、データ活用人材を育成

方針6

令和6年度以降の宮津市の取組みに応じたデータ活用を目指し、ニーズにあった宿泊データ分析システム、更には地域共創基盤への拡張を

1. 宿泊データ分析システム

(1) 宿泊データ分析システムの全体像

- 本システムでは、大きく分けて「データ収集」と「データ分析」の2つの機能で構成し、2つの機能を連動させて構築します。
- 「データ収集」機能では データ収集のための多様な インターフェースを提供し、データ連携における個別施設への負担を極力少なくし、 スムースにします。
- 「データ分析」機能では、 収集したデータを組み合わせて分析可能なデータとして提供します。 また、将来の動向予測（拡張機能）や効果測定を可能にし、計画や政策策定での活用を可能にします。

図 宿泊データ分析システムの基本的考え方

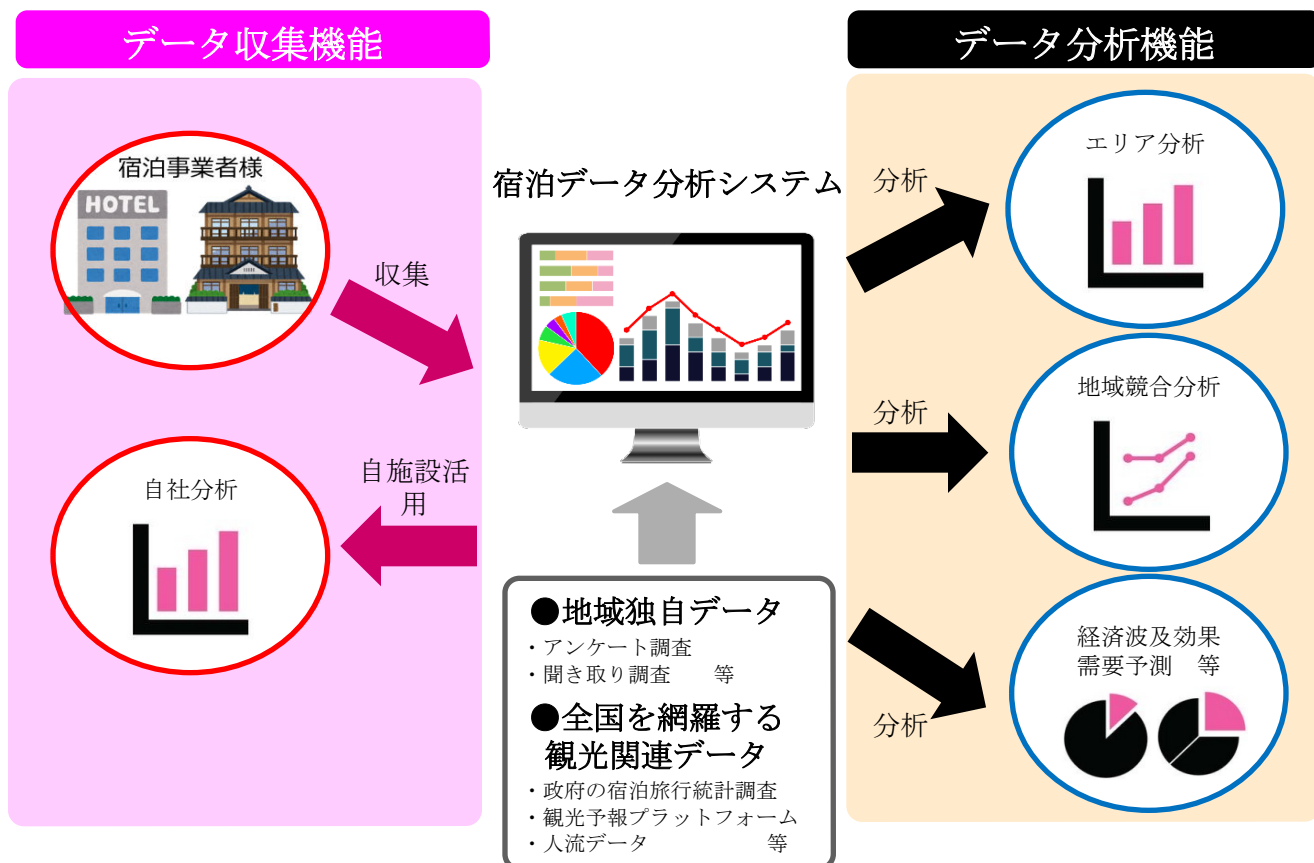
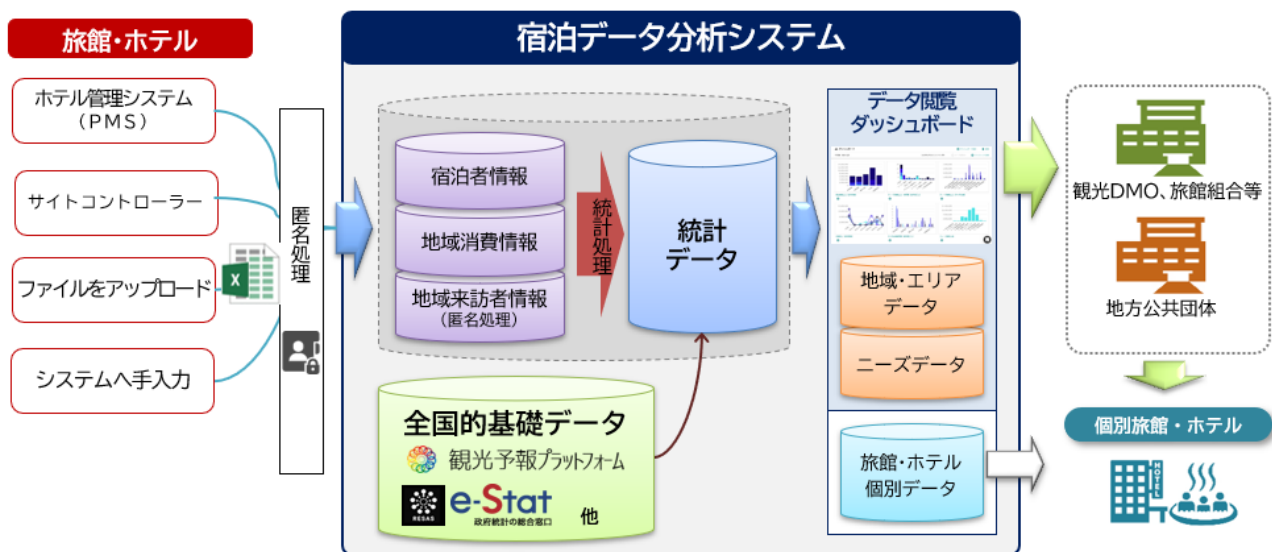


図 宿泊データ分析システムの構成



(2) データを収集する仕組み

① 宿泊データの収集方法

- 事業に参画する各宿泊施設からスムーズにデータ収集を行うため、下記のデータ収集方法があります

<機能整備を想定しているデータ収集方法>

※データ収集

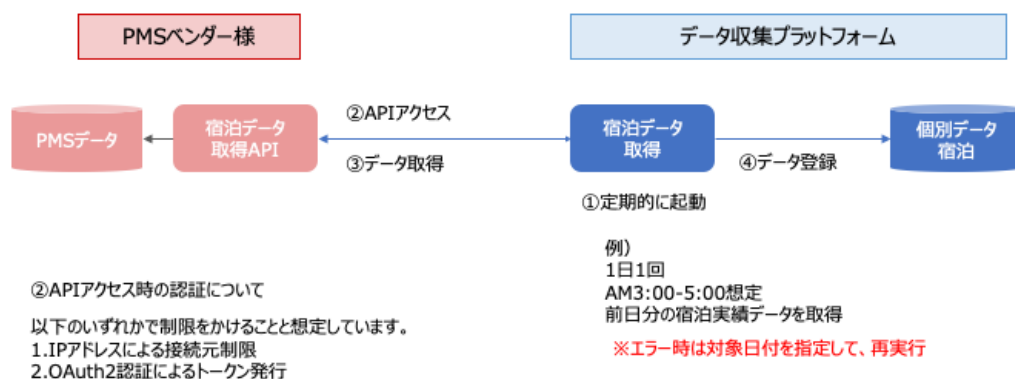
- PMS自動連携による宿泊データ収集
 - 下表①②を参照
- CSVなどのファイルアップロードによる一括登録
 - 下表③を参照
- フォームからの直接入力

連携方式	想定する収集方法	備考
①システム連携 (API方式 等)	PMSやサイトコントローラーが提供する インターフェース (API) を利用し、 データ接続・取得を行う。 ◆対応可能PMS 陣屋コネクト、支配人くん RoomBoss、Future-V (フロントシステム) ◆対応可能サイトコントローラー 宿研、らく通	事業者によっては提供 不可が想定される。
②システム連携 (スクレイピング方 式)	PMSやサイトコントローラーが提供する Web画面を通じ、ダウンロードを行う。 一連の処理をプログラムで作成し、自動化 する。 ◆対応可能PMS ステイシー ◆対応可能サイトコントローラー TLリンカーン	事業者が提供するWeb サイトの仕様によって はスクレイピングが不 可の場合が想定される。 ※二要素認証、不正検 知とみなされてアクセ スブロックされるなど
③ファイル アップロード方式	PMSやサイトコントローラーからダウンロー ドしたExcelやCSVファイルを プラットフォームに提出する。	日次の作業は困難と想 定される。更新頻度は 協議する。

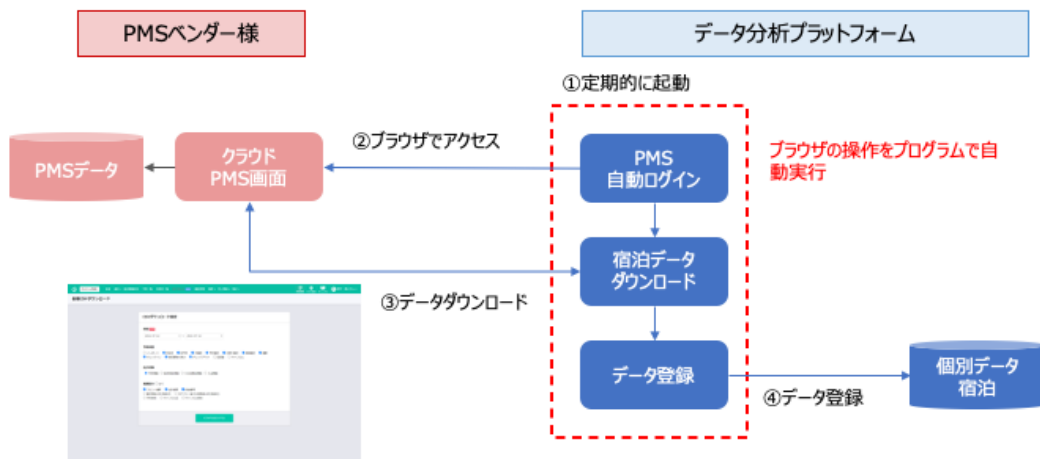
業務の実施内容

<それぞれのデータ収集方法のイメージ>

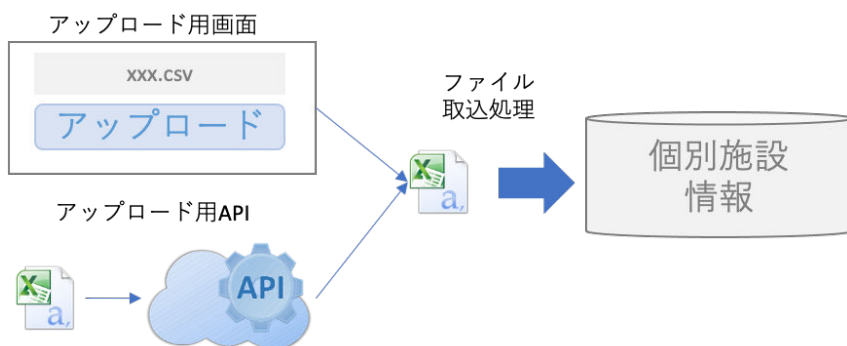
①システム連携（API方式 等）



②システム連携（スクレイピング方式）



③ファイル連携



②データ連携項目

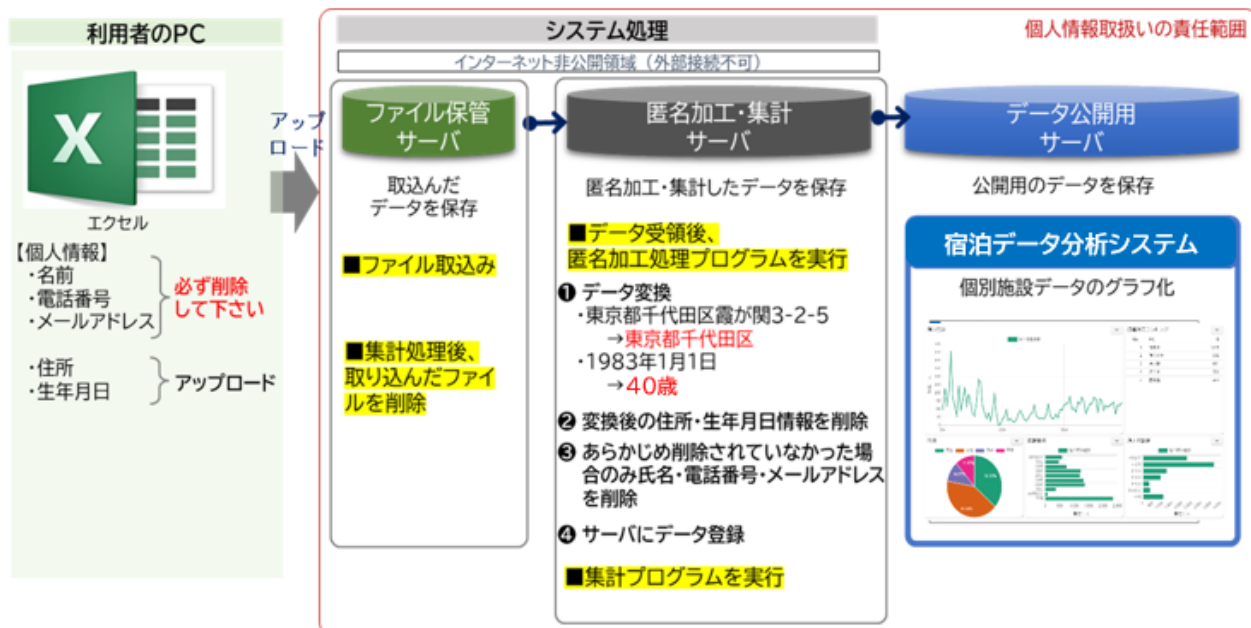
- PMSやサイトコントローラーと 連携し、右記の項目を抽出します。
- その他の項目については、提供するシステムのデータ項目や宿泊施設側での入力内容に応じて調整することが可能です。

No	項目名	入力例
1	対象施設	施設名称
2	到着日	2020-01-01
3	出発日	2020-01-03
4	居住国	日本
5	居住地域（都道府県）	青森県
6	居住地域（市区町村）	青森市
7	性別	男性
8	生年月日	1970/12/13
9	年齢	49
10	同伴者人数（大人男性）	1
11	同伴者人数（大人女性）	0
12	同伴者人数（小人）	0
13	客室タイプ	和室
14	食事条件	1泊2食
15	交通手段	車
16	旅行目的	観光
17	前泊地	名古屋
18	行先地	白川郷
19	宿泊予約日	2019/06/21
20	宿泊金額	15,000
21	販売チャンネル ・業者 ・インターネット(OTA、自社HP) ・直接申込 ・寮・保養所扱い	自社ホームページ
22	宿泊／日帰り	日帰り
23	新規／リピーター	リピーター
24	合計館内消費額	30,000

③データ収集時の匿名化

- PMSやサイトコントローラーで管理するデータでは、氏名、メールアドレスなどの個人情報が含まれていることが想定されます。しかし、現時点では、各旅館・ホテルでの機微な個人情報の多目的への利用・第三者提供は、同意されていないものと考え、宿泊データ分析システムでは、個人情報にあたる項目は削除・変換し、取り込まないことを想定しています。
- 今後、CRMのように顧客管理を行う場合には、顧客同意の上、取り込む対応を想定しますが、今回は下記のような取り込み処理で対応します。
- なお、今後における氏名等の個人情報の利用に際しては、法的根拠にもとづく手続きが必要となります。当コンソーシアムでは、全国複数箇所での同様のシステム構築に携わっており、その知見をもとに、個人情報の利用に関するアドバイスをを行います。

図 個人情報のシステム上での取扱い



(3) ダッシュボード (分析結果の表示)

①ダッシュボード等の役割を満足するシステムについて

- 『宿泊データ分析システム』のダッシュボードは、

地域全体の宿泊予約データをタイムリーに把握し、効率的で効果的なマーケティングを行うとともに、観光事業者に必要なデータを提供しながら、観光地マネジメントすることにより、地域全体の収益性を高め、経済波及効果を増加させる。

という重要な役割を担うものです。

- このことを充足させ、かつ発展させていくことのできる環境を整えるため、実施方針に示すように、**『宿泊データ分析システム』のダッシュボードは、データ収集機能・データ分析機能の2大機能で構成することを提案**します。

②データ収集機能・データ分析機能の2大機能について

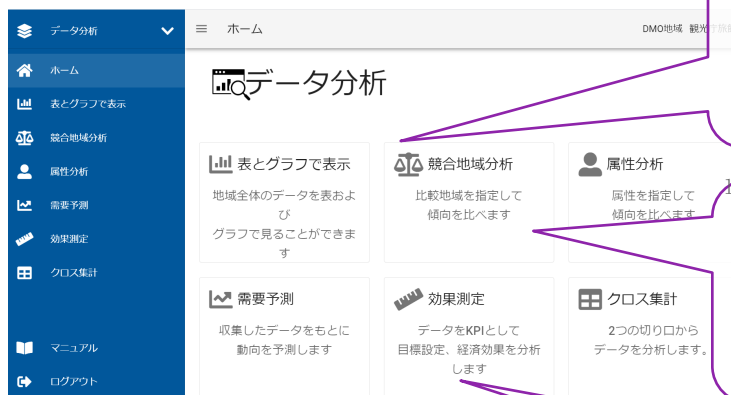
- 2大機能は、以下の通りです。

図 【データ収集】TOPページ



- 1 主に、各旅館・ホテルの利用を想定しています。
- 1 データのアップロード (PMS連携以外) する機能、及び自施設 (各旅館・ホテル) の宿泊動向を確認したり、地域の宿泊動向の違いについて分析することができます。
- 1 個別の旅館・ホテルのデータが表示されるため、他の旅館・ホテル、DMOなどは閲覧できません。

図 【データ分析】TOPページ



- 1 登録されたデータをもとに、地域の観光動向を分析可能です。
- 1 【表とグラフで表示】では、ダッシュボードで各種データを一覧できます。
- 1 宿泊者の属性毎の分析、さらには属性間のクロス分析で宿泊者の属性傾向を詳細に把握することができます。

- 1 【観光情報プラットフォーム (オープンデータ)】が提供する全国市区町村別のデータをもとに、競合地域と自地域の観光動向との比較分析を行うことができます。
- 1 競合地域は、任意設定することができ、近隣の長崎県や熊本県のデータと比較できます。
- 1 宿泊・人流・消費の分野でデータ提供ができます。

- 1 収録データをもとに、今後数か月の「将来需要」を予測表示できます。
- 1 また、産業連関表をもとに、施策により設定するKPI (数値目標) から経済波及効果を分析することができます。

③ダッシュボードで提供する機能

- ダッシュボードではデータによるマーケティング分析を効果的に可能にするため、以下の表の機能
- 各機能の内容については、以下に記載します。

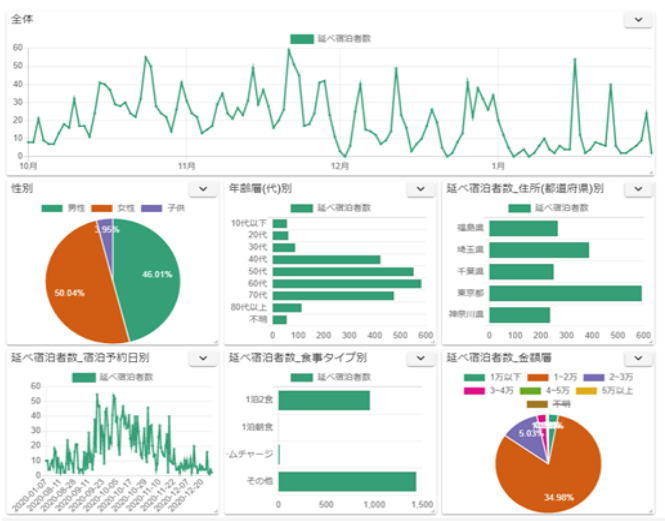
提供する機能	説明
①各種データを一覧表示	宿泊者数全体、属性ごとの宿泊者数など、様々なデータを一覧で表示・分析するための一覧表示機能を提供。
②カスタマイズ可能な様々な表現方式	折れ線、円、棒グラフなどのグラフ形式をはじめ、表形式、ヒートマップ、ランキング表示など収集したデータを様々な表示形式で閲覧可能。
③個別施設と地域全体の比較	自施設の宿泊データと地域全体の集計データを容易に比較する機能を提供。
④クロス集計や経済波及効果の測定	収集したデータをクロス集計、宿泊者・訪問者数による経済波及効果の分析を行う機能を提供。

③ダッシュボードで提供する機能

■各種データを一覧表示

- 宿泊者数全体、性別、国籍別、年齢層別、宿泊単価別など、様々なデータを一覧で表示・分析するための一覧表示機能を提供します。
- また、表示内容をカスタマイズし、それを保存でき、いつでもほしいデータにアクセスすることも可能にします。

▼宿泊データのダッシュボードイメージ



▼指定可能な分析軸の例

- 期間
 - ï 日別
 - ï 月別
 - ï 年別
 - ï 対象期間合計
- 性別
- 予約タイミング
 - 何日前の予約か？
- 出発地
 - ï 国内（都道府県）
 - ï 国内（市区町村）
 - ï 海外（出国国）
- 宿泊単価
 - ï 5,000円単位～
- 年齢層
 - ï 10代ごと

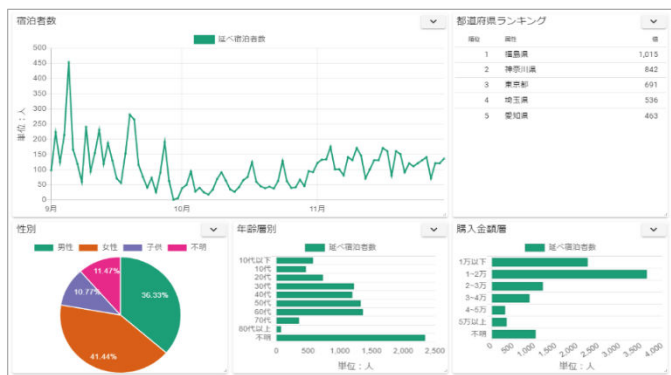
■カスタマイズ可能な様々な表現方式

- 収集したデータを表示する際、折れ線、円、棒グラフなどのグラフ形式をはじめ、表形式、ヒートマップ、ランキング表示など収集したデータを様々な表示形式で閲覧可能にします。
- 表示形式は、表示後もカスタマイズが可能で、その状態を保存できます。自分好みにカスタマイズしたダッシュボードを作成できます。

様々なグラフ表示



様々な表示形式



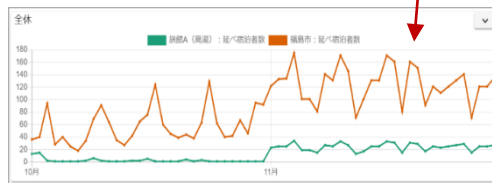
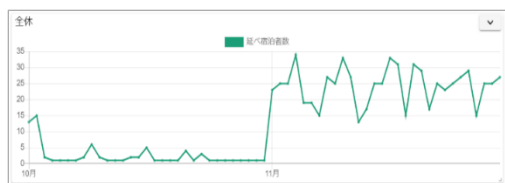
③ダッシュボードで提供する機能

■個別施設と地域全体の比較

- 個別の宿泊施設向けに、自施設の収集データと地域全体の集計データを容易に比較する機能を提供します。今回の宮津市様に地域（エリア別・県域）の傾向と比較できるように改修を行い、自施設の強み・弱みを把握し、施策検討に活かすことができます。

圏域と比較

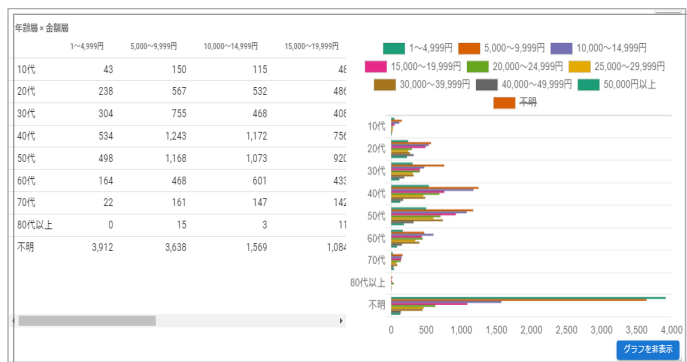
圏域と比較



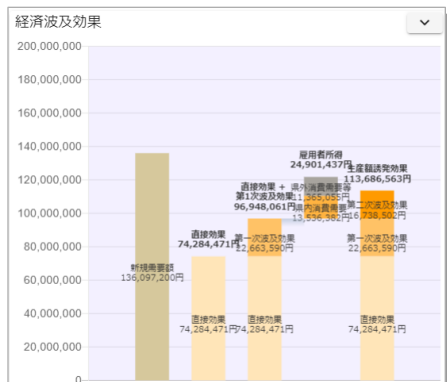
■クロス集計や波及効果の測定

- 収集したデータをクロス集計したり、宿泊者・訪問者数による経済波及効果の分析を行う機能を提供します。
- 顧客属性の動向をより深く分析したり、地域全体の経済波及効果を測定することを可能にします。

▼クロス集計



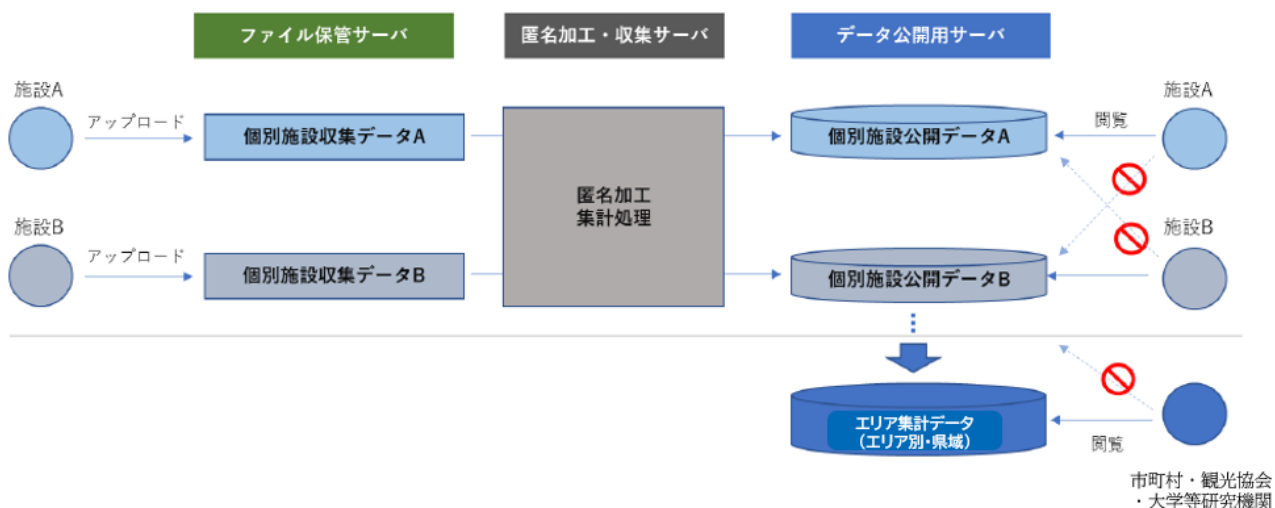
▼経済波及効果



効果測定による			
新規需要額	宿泊効果	第一次波及効果	宿泊効果 + 第一次波及効果
136,097,200円	74,284,471円	22,663,590円	96,948,061円
海外消費増進		国内消費増進	
11,365,056円		13,536,382円	
雇用者所得		生産額効果	
24,901,437円		113,686,563円	
宿泊効果		第一次波及効果	第二次波及効果
74,284,471円		22,663,590円	16,738,502円
カテゴリー		宿泊効果	第一次波及効果
積集業種		1,340,595円	560,406円
畜産		-	371,579円
農機サービス		-	153,367円
林業		-	42,284円
漁業		241,097円	41,315円

④閲覧範囲の制限（当該データを提供した宿泊施設のみ閲覧可能）

- 宿泊施設が安心してデータを提供できるよう、当該データを提供した宿泊施設のみ閲覧可能とし、他の宿泊施設やDMOからは閲覧できない仕組みを実現しております。
- 具体的には、下記の通り、各宿泊施設から収集したデータを論理的に分けたデータとして保存し、他宿泊施設及びDMOではアクセスできない領域に保存します。

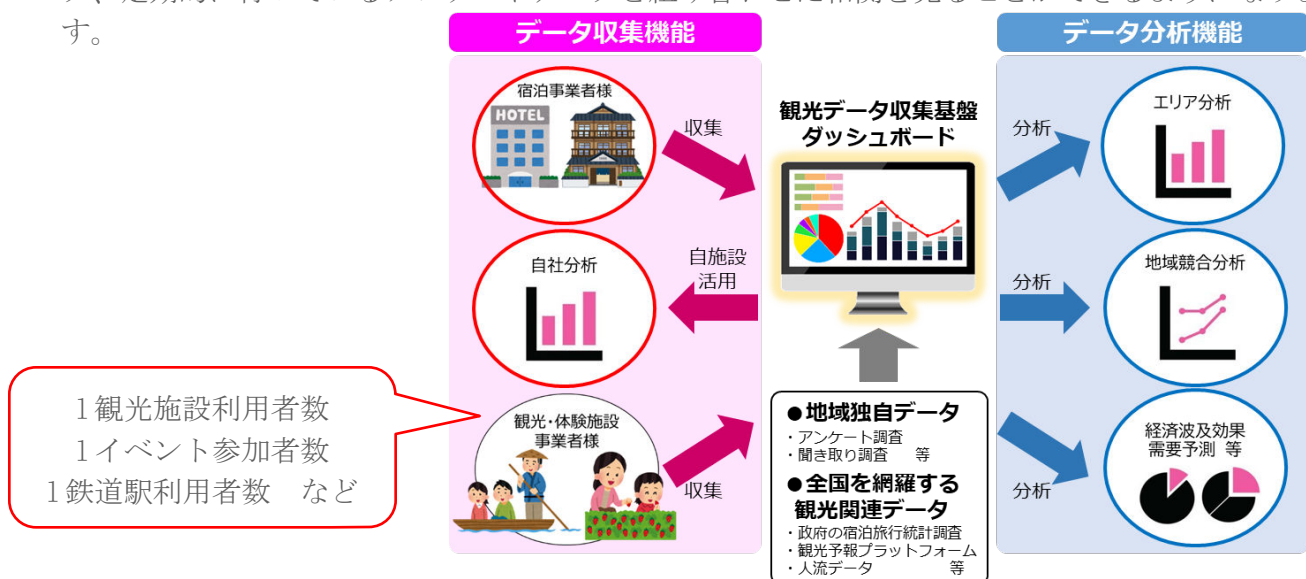


(4) 宿泊データ分析システムシステムの拡張について

基本となるデータ収集・データ分析機能に加えて、以下の対応を行うことにより、本システムを拡張す

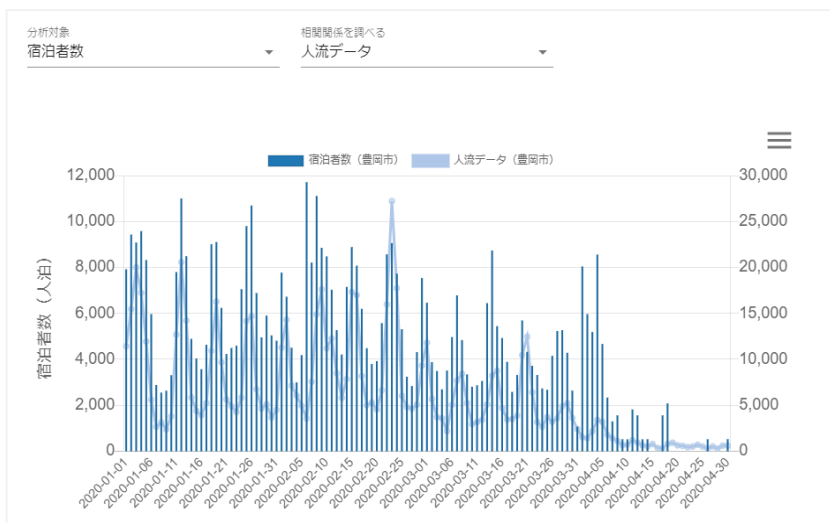
①地域で保有するデータの取込みとデータ分析の実現

- アンケートや地域で収集している統計データなどを宿泊データ分析システム上に取り込み、地域全体で収集した宿泊者情報と掛け合わせた分析を可能にする仕組みを考慮した設計を行っております。
- 次年度以降、実際にデータ収集が始まり、データが蓄積されてきたときに、これまで収集したデータ、定期的に行っているアンケートデータと組み合わせた相関を見ることができるようになります。



②統計データの取り込みと分析の実現

- 観光動向（観光予約プラットフォーム）や人流データ（ブログウォッチャー）などのデータと連携可能にし、自地域に訪れる宿泊者や訪問者数を統計データで比較可能にします。



▶ 宿泊データ分析システムの運用保守管理

(1) 宿泊データ分析システムの運用支援・障害対応

- 運用支援・障害対応の体制や対応内容は下記の通り、実施することを想定しています。

運用保守計画項目	対応内容
(1)運用保守体制・対応時間	<p>運用保守の体制・担当者を配置して、体制を構築します。また連絡方法として、メールやチャットも活用し、該当時間(平日8時30分から17時15分)についての運用保守に対応します。 ※夜間、休日に入った連絡については翌営業日からの対応とします。</p>
(2)障害対応・緊急対応	<p>障害対応用に通常時の受付窓口に加えて、緊急連絡先を確保します。</p>
(3)運用保守内容	<p>下記の運用保守内容を行います。</p> <p>(運用支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問い合わせ対応 ・利用マニュアルの整備 <p>(保守管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バックアップ対応 ・セキュリティ対策のアップデート ・ソフトウェアバグ対応 ・データ不具合等の修正作業 ・セキュリティホールのパッチ対応 ・バージョンアップ作業等 <p>※ハードウェア保守についてはクラウドサービスを利用するため、クラウド事業者による対応となります。本運用保守対応では「対象外」となります。</p>
(4)引継ぎ	<p>他事業者へ引き継げるよう、システム関連ドキュメントの整備とともに、引継ぎ期間について、説明会並びにQA対応を行います。</p>

(2) システム環境・運用保守管理について

- ・ 宿泊データ分析システムに関連するシステム環境及び保守管理は下記を想定して運用を行います。

システム環境・保守管理	対応内容
開発技法等	一般的な開発言語・クラウドサービスを利用します。 開発言語:Vue.js / Python クラウドサービス:AWS
クライアントPCに必要なソフトウェア	インターネットの接続環境およびブラウザで利用可能とします。
OS / ブラウザ	Windows / Macの Google Chrome / Microsoft Edge / Safariに対応します。 iOS / Androidでも上記ブラウザであれば表示は可能ですが、表示範囲が限られるため、推奨しません。
ウェブサーバーの応答時間	利用者が5秒以内にページを開けるようサーバーおよびアプリケーションを構築します。 制限が入る場合については、表示方法の改善等検討します。
システム運用時間	計画停止を除いて、24時間365日の稼働を前提とします。
バックアップ	サーバー毎に1日1回自動実行します。 最低3世代分保持し、前日中のデータに復旧可能とします。
セキュリティ対策	利用するソフトウェアについてはEOLの期間内のバージョンを利用します。 不正アクセスについてはWAF等を導入し、対応します。 定期的にアップデートの実施、緊急性の高い脆弱性が発見された場合はできる限り即座に対応します。 必要に応じて県の監査を受け入れます。
ドメイン	本プラットフォーム用に新規のドメインを発行します。

(3) システムの稼働環境について (データセンター)

- システムの稼働環境はAmazon Web Services (以下AWS) のクラウドサービスを利用します。
- AWSは、政府が公開する「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準」や「金融機関等コンピュータシステムの安全対策基準・解説書 (FISC安全対策基準・解説書)」に準拠しており、

今回のプラットフォームに求められるレンタルサービスの要件も満たしていると判断します。

システムの稼働環境	対応内容
(1)データセンターの運用・利用	24時間、365日の運用、利用が可能です。
(2)データの保管場所	サーバーやデータベースの保存場所を日本に配置することで対応可能です。
(3)建物の出入口への防犯対策	出入り口の防犯対策、入退館管理だけでなく、従業員の定期監査含めて、対策が講じられています。
(4)データセンターへの入退館管理	対応済。
(5)無停電電源装置や発電装置等による停電時の継続運用対策	対応済。
(6)セキュリティ対策	構築するサーバーについてのセキュリティ対策はクラウド利用者側の責任です。本プラットフォーム構築にあたって、適切なセキュリティ設定を行います。
(7)情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格認証を取得	ISO / IEC27001:2013を取得しています。 (Tokyo, Japan) https://d1.awsstatic.com/certifications/iso_27001_global_certification.pdf

3. 宿泊データ分析システムの導入及び活用に関する説明会の企画・実施

(1) 説明会の企画・開催

- 参画する宿泊施設のシステム活用を促進するため、対象者とテーマを分けて、説明会を実施します。（最低4回実施予定）
- 説明会の開催にあたっては、コロナを考慮し、WEB開催+現地開催のハイブリッド開催等 臨機応変に対応いたします。
- 参加する宿泊事業者のレベルに応じた適切な情報提供、宿泊データ分析システム導入の必要性を感じられる情報提供をいたします。

目次構成	対象者	内容
事業説明会	DMO、宿泊施設、 その他観光事業者	1 事業概要説明 1 参画のメリット 1 活用事例紹介 1 デモンストレーション 等
データ収集説明会	DMO、宿泊施設	1 データ収集機能説明 1 協定書・お客様案内書面等の必要手続に関する説明 1 個人情報取扱に関する説明 1 データ収集方法のデモンストレーション 等
データ分析説明会 ①	DMO、宿泊施設	1 データ分析機能説明 1 データ分析活用術（分析事例） 1 データ分析方法のデモンストレーション 等
データ分析説明会 ②	DMO、宿泊施設	1 今後のプラットフォームの活用方説明 1 実データを基にしたデータ分析活用術（分析事例） 等

(2) 講師

- 本事業のコンソーシアムパートナーのメンバーが研修会で、講師を担当させていただきます。その他 観光DX事業を通じて、様々な有識者と関りがございますので、ご相談ください。

畑中 貴之 (はたなか たかゆき) 氏

株式会社オープントーン

取締役兼ITエンジニアリング事業部/部長



大学卒業後は、自動車販売会社に勤めていたが、途中でIT業界に転身を図る。その後、エンジニアとして証券・生命保険の開発プロジェクト経験を経て、個人事業主として独立。ネットバンキングでの開発ベンダー側のプロジェクト マネージャー (PM) を8年ほど勤めて年間100以上のプロジェクトを推進した。

2008年にオープントーンに入社し、取締役就任。2016年以降はビッグデータを活用した情報基盤構築のPMを務め、現在も該当システムの運用を続けている。2018年からはさらに大量のビッグデータを利用するシステム構築や、機械学習・深層学習を利用したデータ活用PMも務めている。

所 功治 (ところ こうじ) 氏

株式会社創建

東京本部 本部長/政策研究第一グループ グループマネージャー



大学卒業後、現シンクタンク系コンサルタントに入社し、勤続30年を迎える。中央省庁、地方公共団体における都市計画、環境計画、観光振興計画などの業務を多数経験し、その経験をいかし、近年では、多角的なデータ分析の観点から、ビッグデータを利用するシステムのあり方に関するコンサルタントも務めている。また、名古屋市地域まちづくりアドバイザー、町田市街づくりアドバイザーに就任し、各地域の観光振興、地域振興の実践を支援している。

資格：技術士（都市及び地方計画、道路）

酒井 幸輝 (さかい こうき) 氏

株式会社ブログウォッチャー

おでかけ研究所 所長



インターネット広告業界におけるバックオフィス業務経験を経て、平成22年2月に(株)コロプラに入社。

運営サービスのデータ分析やマーケティング業務の傍ら、位置情報ビッグデータを活用した新規事業の立上げを推進。

その後、位置情報ビッグデータ活用事業が部門独立を果たし、現在は担当事業室長として、観光や街づくりにおける

位置情報ビッグデータの活用啓蒙・コンサルティング活動を行っている。

4. 参加宿泊施設の対応（問合せ対応等）

(1) マニュアルの作成

- 普段システム操作に慣れていない人が見ても分かりやすい「利用者（宿泊施設）操作マニュアル」を作成します。
- 単なる操作説明にとどまらず、各機能で何が導かれるかに加え、具体的な打ち手を検討する活用術についても分かりやすく記載します。特に「利用者操作マニュアル」は、**システムの利用方法を詳細に説明した「一般向けマニュアル」と、ITに対する抵抗感のある方も気軽にシステムを利用できる「初心者向けマニュアル」の2種類を用意します。**

▼一般向けマニュアル

2. 各メニューの操作方法

2-3. 主な【表とグラフで表示】の操作方法

- ・システムに登録した宿泊データをもとに、宿泊者の日変動、宿泊者の属性の傾向などについて、表やグラフで表示し、宿泊の傾向を確認・分析することができる機能です。
- ・自地域の宿泊者の傾向だけでなく、当該地域全体の傾向と比較することができます。

※【表とグラフで表示】では、宿泊データを用いて様々な角度から分析することができます。ここでは、宿泊データを分析するための**主な操作方法**について紹介しています。

■【表とグラフで表示】のできることに一例

機能	機能の概要
(1) 分析する期間を設定する	・データを登録している期間内を対象に、任意に月単位で期間を設定できます。
(2) テンプレートで概況をみる	・自施設（自地域）のデータをもとに、宿泊者の属性の一般的な属性の傾向を一括表示することができます。
(3) 個別の属性別の傾向をみる	・自施設（自地域）のデータをもとに、宿泊者の属性の中から知りたい属性の傾向を任意で選択し、表やグラフで表現することができます。 ・システムに登録した宿泊データがもとになります。
(4) エリア全体と比較する	・宿泊者の属性について、自施設（自地域）のデータとエリア全体（当該地域）のデータを比較して表示することができます。 ・“③個別の属性別の傾向を見る”についても同様です。
(5) グラフ等の見せ方を変更する	・グラフの表示形式、表示方法などを変更することができます。
(6) 作成したグラフを保存する（会議資料等の作成支援）	・作成したグラフの画像、システムで編集した表示内容は保存することができます。 ・各団体での会議資料の作成などに活用ください。

2. 各メニューの操作方法

(2) テンプレートで概況をみる

自施設（自地域）のデータをもとに、宿泊者の属性の一般的な属性傾向を一括表示します。

- ①【テンプレート】ボタンを押す。
- ②よく利用される一般的な属性傾向について、直近3か月間の傾向が一括表示されます。
※表示される項目：延べ宿泊者の日別推移、性別・年齢層（代）別・居住国別の比率

注意!!

- ・テンプレートでは、直近4か月間のデータが表示されます。
- ・他の期間を表示したい場合は、“①分析する期間を設定する”で、期間を変更してください。

▼初心者向けマニュアル

観光統計プラットフォーム **データ収集** を使って
試していただきたい分析

ポイント 自らの施設を起点に考える

当施設の特徴は？
エリアとの違いは？



知りたいデータがないときは？

宿泊者の【金額層】の分布を見てみたい!

テンプレートでは、【金額層】は、表示されていません。

(2) 問合せ対応等

- 宿泊事業者等からの質問に対して誠実に対応いたします。
- 必要に応じて、宿泊施設等へ往訪での宿泊データ分析システム導入支援に対応出来るよう、JTB京都中央支店で現地体制を整えます。

JTB京都中央支店は

地域の観光にかかわるステークホルダーとの連携を密にし、

地域の観光振興に取り組んでおります。

JTB京都中央支店

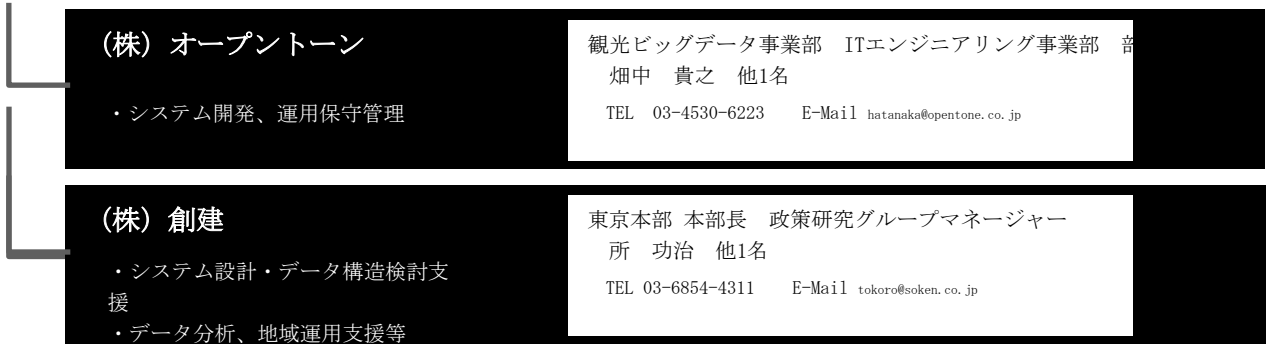
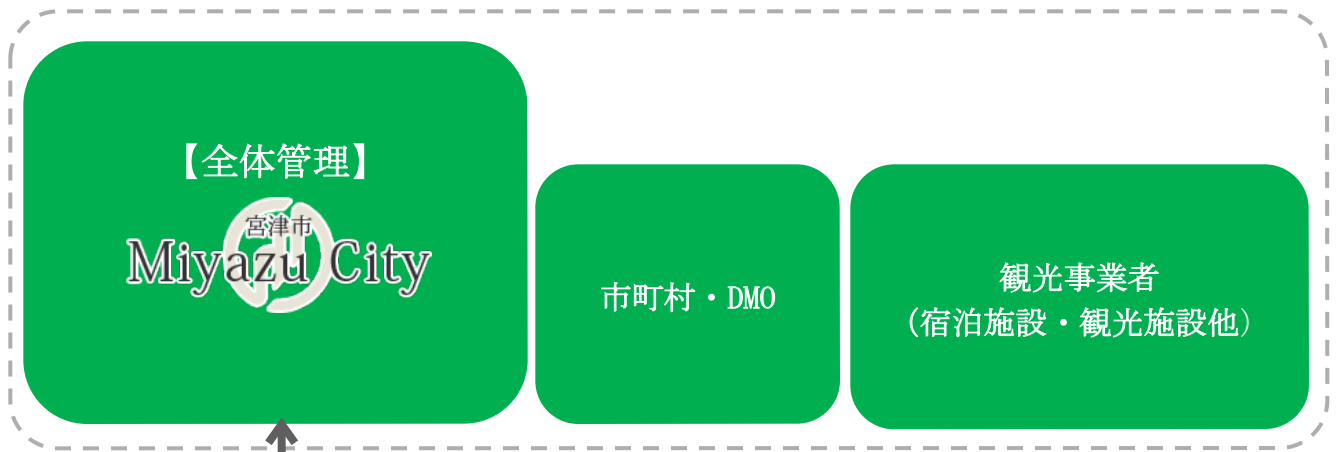
宮津市内JTB契約宿泊施設（25施設）

- 個人型旅行プラン造成、お客様アンケートによるおもてなし強化

JTB協定旅館ホテル連盟 京都支部（加盟204施設）

宮津エリア加盟施設（12施設）

- 宿泊券増売施策、観光施設周辺開発・振興

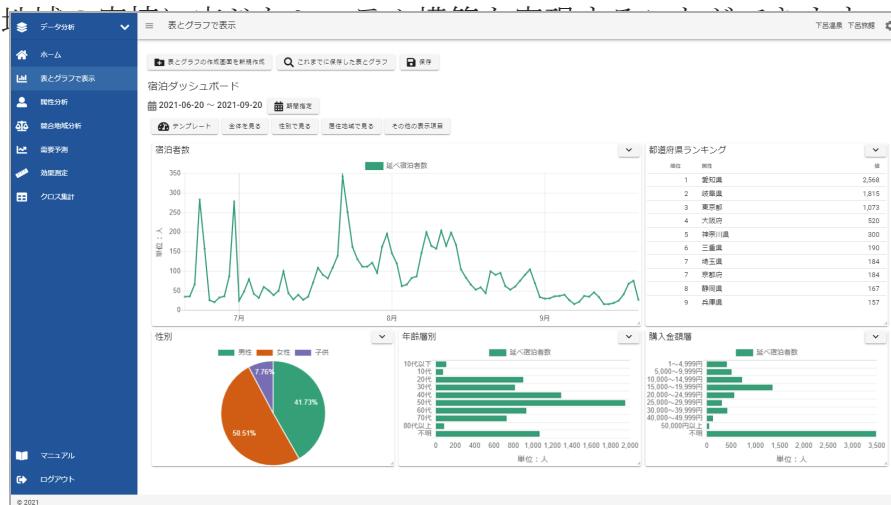


法人の概要

法人名	株式会社 J T B	代表者 役職氏名	山北 栄二郎 代表取締役社長執行役員
本社所在地	東京都品川区東品川二丁目3番11号		
資本金	1億円		
営業年数	創業	現組織への変更	営業年数
	1912年3月12日	2022年4月1日	110年
各部署の特色	<p>[京都中央支店] 法人・個人のお客様をはじめ、地元自治体様・経済、並びに教育関係団体様等と正対し、旅行業にとどまらず、地域交流事業、ふるさと納税事業、法人向けソリューション事業などを取り扱っております。 お客様と地域に徹底的に寄り添い、「実感価値」を高めるソリューションやサービスの提供により、お客様満足度の追求と地域社会の課題解決に貢献し、地元京都において不可欠な企業を目指し、日々頑張っております。</p> <p>[霞が関事業部] 中央省庁・外郭団体・国会などと正対し、JTBグループが標榜する「地域交流事業」の一翼を担い、その規模拡大と社会課題に資する国策連動の受託事業運営および事業開発をはじめ、ソーシャルソリューションビジネス全般を専門に取り扱っています。</p> <p>AI/IOT/ビッグデータ/EV/MaaSといったSociety5.0関連の課題、農山村漁村・農泊、訪日外国人旅行者の課題、地域活性や観光振興、医療、教育サービス、国際交流、関係人口拡大といった我が国における幅広い社会課題の解決に日々取り組んでいます。</p> <p>[エリアソリューション事業部] “地域・エリアを1つのテーマパークのように「つなげ、価値を高める」”ことを目指し、多様な事業者との共創によりエリア・地域の持続的な発展を希求し続けそれを実現する存在となることをビジョンとして掲げています。観光事業者様や自治体・DMO様へのビジネス展開を通じて、観光地におけるDXや人材、インフラなどの課題解決を図り、地域の活性化につなげて参ります。</p>		
加入団体	一般社団法人 日本旅行業協会 正会員、ボンド保証制度、旅行業公正取引協議会、国際航空運送協会、プライバシーマーク		
備考	社員数：12,726名（2022年4月1日現在）		

◆観光庁発注による複数年の同種業務実績によるノウハウの蓄積

- 当コンソーシアムでは、2020年度及び2021年度において、観光庁の『観光地域づくり法人による宿泊施設等と連携したデータ収集・分析事業運営業務』を継続受託しております。
- この業務では、ニセコエリア、秩父エリア、下呂温泉エリア、秋田北部エリア、奈良吉野エリア、高知県東部エリアと、異なる観光地特性をもつ複数のエリアにおいて実証を重ねており、データ収集の段階から、システムの構築、システムの利活用に関するノウハウを蓄積しています。
- これらのノウハウは、本業務に直接的に反映することのできるノウハウであり、宿泊事業者の実情に応じたデータ収集の仕組み、及びシステムの構築など、確実に業務を遂行することが可能です。
- 本業務の仕様を示されるPMSとの自動連携については、宮津市内宿泊施設で利用の多い「らく通」、「TLリンカーン」との連携を既に実現しており、その他のPMS連携にも知見を有用に活かすことが可能です。さらに、ダッシュボードにおいても、右図に示すように、基本仕様は実装段階にあります。これらのデータをエリアソリューション事業部が取り扱う地域共創基盤に取り込み、地域の要望を踏まえた開発を行うなど、



◆過去のビッグデータ活用実績によるデータ取り扱いに関する有効な知見の保有

- 当コンソーシアムでは、経済産業省・観光庁などの事業を通じて、多数の地域での観光を中心としたデータ活用システムの構築支援を実施しており、データ活用のノウハウを有しています。
- この知見を活かし、宮津市様においても地域の特性に応じたデータ活用、ひいてはデータ活用による地域活性化支援に寄与していきたいと考えております。

宿泊データ分析システムの導入地域

観光庁の『観光地域づくり法人による宿泊施設等と連携したデータ収集・分析事業運営業務』にて実証事業に協力いただき、今年度も継続をいただいている6地域、また、2022年度に地域独自事業によりお取り扱いをさせていただいている8地域です。

